

令和元年度 事業報告書（概要版）

総務省が昨年9月に発表したところによると、人口の高齢化は出生率の低下と相まってますます加速化しており、65歳以上の高齢者人口は3,588万人で全人口に占める割合が28.4%と過去最高となる超高齢社会を迎えております。

「高齢者の世紀」と称されることもある21世紀において、豊かで活気のある長寿社会を築いていくためには、高齢者が地域社会において積極的に役割を果たしながら生きがいを持って生活をしていくことが必要です。そのためには、積極的に地域活動に参画し、培ってきた経験や知恵を活かした取り組みを進めるなど、私たち老人クラブの役割がとても重要なものになっています。

このような中で、大老連では「老人クラブの元気は地域の元気」の信念のもとに、全老連が提唱する老人クラブ21世紀プランに沿って、「健康・友愛・奉仕」の実現をめざして、さまざまな活動を展開してきました。

まず、健康づくりとして、ゲートボール大会等のスポーツ事業を実施するとともに、区老連活動を支援するため「高齢者の健康ウォーキング事業」への助成事業を継続実施するなどの取り組みを積極的に進めてきました。

また、ねたきり高齢者の友愛訪問や百歳長寿者のお祝い訪問、友愛募金運動の推進などの友愛活動、そして全国一斉「社会奉仕の日」や環境美化・リサイクル活動の取り組み、あるいは子ども見守り活動などの奉仕活動、友愛募金運動推進事業である第8回カラオケ大会の開催、さらには、豪雨災害発生に対する募金活動など多様な活動を精力的に実施してきました。

さらに近年、全国的にオレオレ詐欺をはじめとする特殊詐欺が多発し、特に高齢者の被害が増え続けているため、大阪府警察、大阪市消費者センター等と連携し、高齢消費者被害防止に取り組んできました。

そのような中で、今後、老人クラブの発展をめざすには、その活動を担う指導者の養成が今一番大切であり、単位老人クラブの会長や女性部長を対象とした指導者合同研修会の開催をはじめ、次世代を担う女性部リーダーを対象とした研修を開催するほか、今年11回目を迎える「健康づくり推進リーダー養成講座」は内容の充実を図り継続実施し、各区老連への出前講座としての「リーダー養成講座」も引き続き実施するなど、幅広い人材育成、リーダー養成に努めてきたところです。

さらに、大阪市高齢者福祉大会の大阪市との事業共催をはじめ、各区老人福祉センターを拠点として活動している各区老連事業とも緊密な連携を図りながら、近畿老人クラブ連絡協議会に参画し、「近畿ブロック老人クラブリーダー研修会」

については本会が当番老連として近畿の府県市老連257人の参加を得て開催しました。また全国老人クラブ連合会等の実施する「全国老人クラブ大会」や「女性リーダーセミナー」などへの参加により広い視野に立って積極的で活発な活動を展開してきました。

そして、全国の老人クラブが抱える重要課題である会員の減少や財源の確保等に対しては、全老連において平成26年度から平成30年度までの5年間に於いて老人クラブ「100万人会員増強運動」を推進し、これに呼応して、大老連においても、老人クラブ「1万人会員増強運動」を展開し、会員の減少の歯止め、新規会員の勧誘活動を積極的に推進してまいりましたが、依然として会員の減少に歯止めがかからない状況が継続しています。会員数の減少等による厳しい財政状況に対応するため、事務局職員を削減するほか、昭和33年8月の創刊以来、毎月発行してきた機関紙（月刊大老連）を名称も「大老連だより」と改め、隔月発行に変更しました。

大老連としては、地域の高齢者を代表する組織として、高齢者が活力を持って明るく豊かな長寿社会となるよう人生の充実と長寿を喜びあえる地域社会づくりに取り組んできたところです。